

草の根通信

Vol.85 (2015年12月4日発行)



King Center- Eternal Flame

P12 事務局だより

土佐ジョン万会、
森薫事務局長からの寄稿

P12 協賛企業一覧

平成26年度寄附協賛企業一覧



P10

寄稿「ジョン万次郎と『白鯨』
—国際メルヴィル会議より—」

—国際メルヴィル会議より—

北代淳二



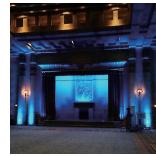
P06

おおいた大会参加者の感想



P04

ローカル・ツアー紹介



P03

オープニング式典／歓迎レセプション／
宿泊ホテルご紹介

P02

大会日程

特集

開催に向けた準備が着々と進んでいます！
第26回 日米草の根交流サミット・
広域アトランタ大会

フォックス劇場のパーティールーム

特集

第26回 日米草の根交流サミット 広域アトランタ大会

来年2016年の日米草の根交流サミットは、10月4日から11日までアトランタとその周辺都市で開催します。10月初旬は、アトランタが一番過ごし易くかつ最も晴天日が多い時期。日程、宿泊ホテル、ローカル・ツアーなどもほぼ決定し、15市が地域分科会の開催地となります。見所満載のアトランタで大自然と南部文化、そして温かな「サザン・ホスピタリティ」に触れていただきます。(予定は変更になることがあります)

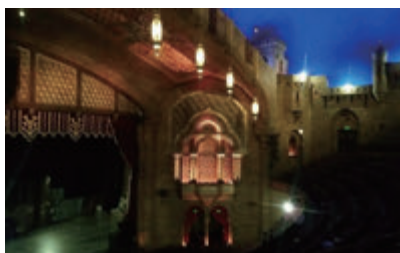
アトランタ大会日程

10/4 (火)	成田空港 アトランタ着	午後 夕刻	成田からアトランタへ アトランタ空港到着、ホテル到着 (ザ・ジョージアン・テラス泊)
10/5 (水)	ローカル・ツアー オープニング式典 歓迎レセプション	午前～午後 夕刻	ローカルツアー(次ページ参照) フォックス劇場でオープニング式典と歓迎レセプション (ザ・ジョージアン・テラス泊)
10/6 (木)	分科会	午前	地域分科会へ出発、地域分科会開始 (ホームステイ)
10/7 (金)	分科会	終日	地域分科会 (ホームステイ)
10/8 (土)	分科会	終日	地域分科会、またはホストファミリーと終日交流日 (ホームステイ)
10/9 (日)	分科会 クロージング式典 フェアウェルパーティー	昼頃 午後 夕刻	ホスト・ファミリーとストーン・マウンテン・パークへ ストーン・マウンテンでクロージング・セレモニー フェアウェルパーティー ホテルへ移動 (エバグリーン・マリオット・リゾート泊)
10/10 (月・祝)	アトランタ発	午前	アトランタ空港から成田へ またはポストサミット・オプション・プログラムへ
10/11 (火)	成田空港	午後	成田空港着 成田から各地へ

オープニングはフォックス劇場で!

オープニング式典と歓迎レセプションの会場は、歴史的建造物として登録されているフォックス劇場 (FOX Theatre) に決定しました。古代エジプトとイスラム文化が混合したような、魅力的かつ異国情緒たっぷりの建物です。

この劇場が建てられたのは1929年。このような異彩を放つデザインになった背景には、当時のエジプトブームがあります。遡ること1922年、イギリスのカーナヴォン卿の支援を受け、考古学者のハワード・カーターがエジプトでツタンカーメン王の墓を発見すると、世界中で大きな話題となりました。しかし、墓の公開直後にカーナヴォン卿が急死したのをはじめ、その後次々に発掘関係者が不遇な死を遂げ、「王家の呪い」伝説が世界をかけ巡りました。フォックス劇場は、このブームによって、エジプト調の内装、そしてモスクの尖塔を持つイスラム調の概観をもつ斬新なデザインとなりました。その後、紆余曲折を経ながらも、ミュージカルやオペラ、映画、コンサートなど、数々の芸術の舞台となり、今日までアトランタ市民に愛され続けています。この劇場は、お泊りいただくホテル、ザ・ジョージアン・テラスの真正面に建っています。

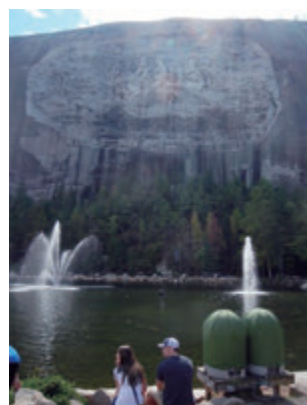


劇場内部



フォックス劇場の看板

クロージングはストーン・マウンテンで!



ストーン・マウンテン・パーク



ストーン・マウンテンに登ると360度のパノラマが広がります

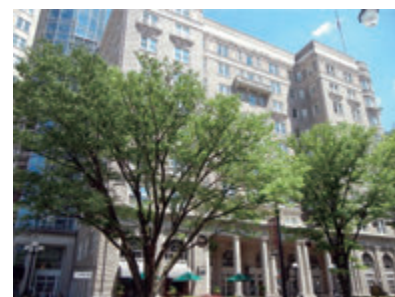
クロージング式典とファウェル・パーティーは、大自然の中で行う予定です。アトランタ中心部から北東へ車で約20分。巨大な花崗岩、ストーン・マウンテンが出現します。マウンテン(山)の名称が付いているものの、実は一枚岩で、地上に出ているのは全体のわずか1%にしかすぎません。それでも、その1%の巨大さに圧倒されることでしょう。その岩の側面には、50年かけて掘り込まれた南北戦争の南軍の英雄3名の巨大なレリーフ(彫刻)があります。

クロージング式典とパーティーは、そのレリーフの真ん前、公園の広大な芝生の上で開催予定です。式典の前には、ストーン・マウンテンにロープウェイで登っていただいたり、あるいはレリーフに関する展示があるメモリアル・ホール、1870年代の町並みを再現したクロスロードなどもお楽しみいただけます。雄大な自然の中で、ホストファミリーと最後の時間をお過ごしいただけます。

宿泊ホテルのご紹介

宿泊ホテル「ザ・ジョージアン・テラス」で最初の2泊を

最初と2日目の夜は、歴史的建造物に指定されているホテル「ザ・ジョージアン・テラス」にお泊りいただけます。この「貴婦人のたたずまいを持つ気品に満ちたホテル」は1911年に建築され、1939年には映画「風と共に去りぬ」のプレミア上映会がそのボール・ルームで行われました。もちろんその時には、ビビアン・リーやクラーク・ゲブルら俳優陣や監督なども宿泊しています。ボール・ルームの入り口には、その時の写真プラークが今でも飾られています。1991年からは一時、高級アパートメントとして使われていたこともあったため、部屋によってはその名残を今も見ることができます。



ザ・ジョージアン・テラス

クロージングの後は「エバーグリーン・マリOTT・コンファレンス・リゾート」で

大会最後の夜は、ストーン・マウンテン・パーク内の「エバーグリーン・マリOTT・コンファレンス・リゾート」に宿泊します。「リゾート」の文字が付くように、周りは湖と森に囲まれ、大自然の中でリラックスできる環境です。

広域アトランタ大会は、魅力的なローカル・ツアーがずらり!

広域アトランタ大会の2日目、オープニング式典の前には、アトランタ周辺の文化や歴史、自然、ビジネスなどに触れていただくために、いくつかの「ローカル・ツアー」を準備中です。今回は初めて、ゴルフプレーも組み込みました。準備の過程で変更になる可能性もありますが、現在計画中のツアー概要を紹介します。

A 「風と共に去りぬ」コース

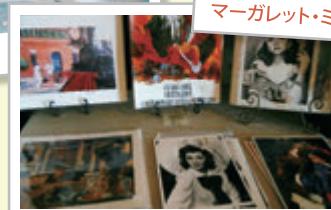
アトランタと言えば、マーガレット・ミッチェル著「風と共に去りぬ」を真っ先に思い浮かべる方も多いことでしょう。ビビアン・リーとクラーク・ゲーブルなど、豪華俳優陣で知られる同名の映画も、世界中で多くの人々に感動を与えました。ミッチェル自身も、南北戦争の激戦地アトランタ出身。このコースでは、彼女が「風と共に去りぬ」を執筆した「マーガレット・ミッチェル・ハウス」を訪ね、同作品がいかにして生まれたのか、また彼女の生涯を振り返ります。その他にも、郊外の可愛らしい町マリエッタに建つ「風と共に去りぬ博物館」を訪問し、映画にちなんだ品々を見学。さらに、アトランタ歴史センターでは、同時代の上流階級の大邸宅スワンハウスも見学します。



ミッチェルの寝室



マーガレット・ミッチェル・ハウス



映画にちなんだ品々

B 「アトランタ中心街」コース



CNNセンター

ワールド・オブ・コカ・コーラ

ジョージア水族館

アトランタの中心街は、見所の宝庫。このコースでは、街の中心に位置するセンテニアル・オリンピック公園に面した3つのアトラクションを訪問します。一つ目は世界にニュースを発信するCNN本社ビル、CNNセンター。ここでは、実際の報道で使われているスタジオなどを見学します。世界を巡る報道の最先端を見ることが出来ます。二つ目はワールド・オブ・コカ・コーラ。アトランタは、コカ・コーラの本社がある街。このワールド・オブ・コカ・コーラでは、いかにしてコカ・コーラが生まれたのか、またその秘密のレシピが収められた金庫の見学など、楽しいアトラクションがいっぱい。世界中の同社のソフト・ドリンクが好きならだけ試飲できるコーナーもあります。最後は、ジョージア水族館。全米最大規模の水族館の巨大水槽には圧倒されます。また、イルカ・ショーはミュージカル仕立てで、美しい音楽と光に彩られたストーリーが展開。イルカがすばらしい演技を見せてくれます。

C 「公民権運動を学ぶ」コース

アトランタ市民がもっとも誇りとする人物は、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師でしょう。キング牧師が生まれ育った一角は国の史跡に指定されています。そのキング牧師国立歴史地区には、彼の資料や遺品などが展示されているキング・センター、また父親の代から伝道が行われ、公民権運動の中心的存在ともなったエベニザー・バプティスト教会などがあります。美しい池の中央に安置されているキング牧師夫妻の棺には、全米の祝日キング牧師デー(1月)に毎年大統領が献花に訪れます。他にも、このコースでは、ジョージア出身の大統領で2002年のノーベル平和賞を受賞したジミー・カーター元大統領の功績を伝えるジミー・カーター・ライブラリーにも立ち寄ります。人権外交とNGOの支援活動でも知られるカーター元大統領は、今もジョージア州民に愛されています。最後は、アトランタ中心街に2007年に建設された公民権・人権センターを訪問します。市民の支援を受けて設立されたこのセンターには、キング牧師と公民権運動、また現在世界で起きている人権侵害やその擁護活動の情報が展示されています。



キング牧師の生家



キング・センターの一角



カーター・ライブラリーに再現された大統領執務室

特集 第26回広域アトランタ大会 (ローカルツアー紹介)

D 「自然満喫」コース

アトランタの中心街から少しはずれると、緑に覆われた南部らしい大自然が広がります。10月は、暑くもなく寒くもなく、そうした自然を満喫するには一番の季節です。このコースでは、まずアトランタ植物園を訪問。このキャノピー・ウォークと呼ばれる森の中に設置された回廊から、大自然の「緑の鳥瞰図」を楽しんでいただきます。次に、ファーンバンク自然史博物館では、巨大恐竜をはじめとした太古の自然、また宇宙創造などの大掛かりな展示をご覧くださいとともに、ファーンバンクの森を軽くハイキング。最後はチャタフチ川でカヤックを楽しみます。国立自然レクリエーション地区として指定されている流域は、市民が自然を満喫できる憩いの場です。緑の静けさに囲まれ、ゆったりと流れるチャタフチ川の上で、カヤックを楽しみながら自然の空気を思いっきり吸っていただきます(インストラクターの指示に従い、救命ベストを身に付けていただきます)。



アトランタ植物園のキャノピーウォーク



ファーンバンク自然史博物館



チャタフチ川

E 「アトランタのビジネス」コース



ミッドタウン風景



ダウンタウン風景

米国南東部は、人口と経済の両面で成長を続けるアメリカを先導するマーケット。その中心がアトランタ圏です。北東部や中西部が人口減少で連邦政府の議席数を減らす中、南東部はその数を増加させています。数百に及ぶ企業、非営利団体、連邦政府機関の地域本部がアトランタに置かれ、日本をはじめ各国がアメリカ南東部の総領事館をアトランタに設置しています。北米の製造業と流通の中心でもあり、ハーツフィールド・ジャクソン・アトランタ国際空港は、世界一の稼働量と世界最大の旅客輸送量を誇っています。その空輸能力と空港内の生鮮食料品センターなどにより、世界でもっとも効率的な空港に格付けされました。フォーチュン500社に選ばれた多くの企業と、国際的企業約500社がアトランタ圏内に本部を置き、アトランタ周辺の優れた労働力と相まって発展を続けています。このコースでは、ジョージア日米協会のいくつかの会員企業を巡りながら現地のビジネス事情を学びます。

F 「名門会員制ゴルフクラブでプレー」コース

アトランタといえば、公設・私設の名門ゴルフコースが数多く点在する都市圏として全米でも有名です。その名門中の名門として知られる「イースト・レイク・ゴルフ・クラブ」でプレーします。このクラブは会員制ですが、草の根サミットを共催する現地のジョージア日米協会のはからいで、特別にプレーが可能となるものです。イースト・レイクは、「ゴルフの神様」ボビー・ジョーンズのホーム・クラブとして有名であり、PGAツアーのチャンピオンシップ(PGA Tour Championship by Coca Cola)も、2005年以來ずっとここで開催されています。ちょうど草の根サミットの開催時期は、このPGAツアーが行われた直後。タイガー・ウッズも愛する美しいコースで、ジョージア日米協会の会員の皆様と一しょにゴルフをお楽しみいただけます。



イースト・レイクのコース



クラブハウス内



100年以上の歴史を持つ名門クラブ

おおいた大会、参加者の感想文!

今年7月に開催された大分での草の根サミット後、いくつかの感想文がCIE事務局に寄せられています。ここでは、その中からいくつかをご紹介します。

ルビー・ホロウェイ

テキサス州ボーモント市在住



左端が筆者

今回の旅は、私にとっては素晴らしいものであり、そしてほろ苦いものともなりました。私は実は福岡生まれです。そして、両親と共にいつかまた訪日したいとずっと思っていたのです。しかし、すでに両親は亡くなり、友人がこの草の根サミットへの参加を誘ってくれるまで、日本再訪の機会があるなんて思いもよりませんでした。竹田市でのホームステイは期待以上で、そこでのおもてなしは驚異的でさえありました。まず私達は市役所でお世話してくださる方々とお会いしました。ハダさん、イタイさん、アカミネさんには、本当に感謝しています。地域の文化、食事、歴史をご紹介くださり、分科会のハイライトともなった散策にもお連れくださいました。岡城址、姫ダルマのお店、能劇場、そば打ち、滝廉太郎の音楽と生涯、美しい茶道などなど、山に囲まれた美しい街の文化を十分に堪能することができました。ホームステイは、セイジさんとチヨコさんのご家庭でした。チヨコさんは、花と野菜を育てておられたので、新鮮な有機野菜、ハーブ、果物が食卓に並びました。いくつか基本的な日本料理も教えてもらいました。セイジさんは、そば打ちを教えてくださいました。私達は山道を散策し、古い寺や温泉、滝にも行きました。道路脇の公園には、木をトリミングして動物やキャラクターに仕立てたものが数百もあり、そこにはなんと自由の女神までありました。平和的で自然と調和した彼らの生活は、私のアメリカでの非常に忙しい毎日とは対極にあるものでした。言葉の壁を越えて、私達はよく交流し、一生の親友になることができました。このプログラムのために尽力くださった全ての方々に感謝いたします。

ジュリア・マリコ・デイビス (16歳)

テキサス州ダラス市在住



右から2番目が筆者

大分での草の根サミットでは、信じられないほどの経験をしました。たった一週間だったけど、本当にたくさんものを見て、多くの体験をしました。少しだけその紹介をすると、お寿司と和菓子を作ったり、太鼓演奏を聞いたり、鍾乳洞に行ったり。高校では書道もしました。ホストファミリーと買い物に行ったり、神楽を見たりとか。温泉には何回も行きました。佐伯市で、大都市から離れた生活体験ができたのは、超クールでした。ホームステイは本当に楽しかったし、ホストファミリーはすごい良い人達でした。他にも、たくさんの面白い人達に出会うことができ、また次のサミットにも参加したいです。

コリーン・メツガー

バージニア州ヴィエナ市在住



今回は、父といっしょに参加する2回目の草の根サミットでした。そして、今回もまた決して忘れることのできない、素晴らしい旅となりました。浴衣を着たり、カラオケで歌ったりなど、多くの初めての体験もしました。ホームステイもとても楽しむことができました。ホストファミリーは、とっても寛大で親切で、とても楽しい方達でした。知っている英語の単語は限られていましたし、私もほとんど日本語ができませんでした。全員でお互いの言葉を学びあい、とても楽しい時間を過ごすことができました。日田市での地域分科会では、ホストファミリー以外にも多くの方々とお会いして友情を育むことができました。これからも草の根サミットに参加したいし、友人や他の家族ともこの体験を共有したいです。

おおいた大会 感想文

ヒュー・スミス

カリフォルニア州ギルロイ市在住



サミットは3回目、夫婦で参加しました。今回も素晴らしい体験をすることができました。私達のホストファミリーは宇佐市のサヤ家の皆さんで、とてもフレンドリーで温かく迎えてくださいました。家族の中には特に英語を流暢に話す方がいらした訳ではありませんが、なんの問題もありませんでした。日常の本物の日本食をいただき、伝統的な日本の生活を心から楽しませていただきました。

宇佐での分科会もとても良かったです。素晴らしい引率者のおかげで、初めてのものを見て、初めての体験をたくさんさせていただきました。歓迎パーティーも素晴らしいものでしたが、お別れのパーティーはそれにも増して特別なものとなりました。そこでは、

とても美味しい地元料理をいただきましたし、分科会で訪問した高校相撲部の生徒さん達をはじめ、分科会で出会った方々もそこに参加されておられました。

大分の後には、福島でのポスト・サミット・オプション・プログラムに参加しました。除染情報プラザでは、2011年の津波と原発事故後の復興活動について学ぶことができました。実際のところ、福島を選んだのは、こうした情報を得たことが理由でした。ここでのホストファミリーは、ヤマキ家の方々に、ここでも本当の日本のご家庭のおもてなしを受けることができ感謝しています。引率して下さったヤマグチさんも、私達が楽しめるようお気遣いくださいました。

宇佐市の皆さん、福島の皆さんのことは、決して忘れません。またお会いできることを祈っています。



前列右端が筆者



南相馬のグリーンアカデミーで

クリストファー・トラウトマン

テキサス州ボーモント市



大分の草の根サミットへの参加は、素晴らしい体験となりました。その深い内容にとっても感激しました。今では、私が住むテキサス州ボーモントよりも、別府市に詳しいくらいです。

地域分科会は、とてもよく運営されていて、引率して下さった方々はとても親切でした。もっとも驚いたのは、ホームステイが非常に魅力的だったことです。これほどホストファミリーと親しい関係を作れるとは思っていませんでした。実はサミット終了後、私は息子とともに別府に戻る用事がありました。というのは、サミット期間中、私の絵が別府で展示されており、それを引き取りに行ったのです。私のホストファミリーは、それをお手伝いくださり、ご家庭に招待して泊めてくださったのです。息子は、ホストファミリーの子ども達ととても親しくなり、今でももう一度行きたいと話しています。実際、来年の夏には再会しようと計画中です。場所は、別府か(私の妻の実家のある)都城になるかもしれません。いつかはボーモントでもお会いしたいです。現在、タカギさんとはフェイスブックでやり取りをしています。そこにサミットやホームステイ期間中の写真を投稿して、タカギさんの家族に見てもらっています。

大分サミットは、別府でのローカル・ツアー、分科会、またホストファミリーとの交流を通して、別府を十分に知る機会を与えてくれました。これから将来も、別府のホストファミリーとの友情を継続するとともに、別府との関係も続けていきたいと思っています。



左端が筆者



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、
様々なビジネスを創造してきました。
それでも、まだまだ成長過程。
人のため、社会のために、
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、
ひとつの思いから。

www.mitsubishicorp.com

 三菱商事



あたたかい空へ。あたらしい空へ。

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

国内線のお問合せ ☎ 0570-029-222 (全国一律料金) 国際線のお問合せ ☎ 0570-029-333 (全国一律料金) www.ana.co.jp



日本で開かれた国際会議で、「ジョン万次郎」の名がひんぱんに参加者の口にのぼったのは、おそらくこれが最初だろう。このほど東京三田の慶応大学で開かれた第10回国際メルヴィル会議のことである。

この会議は、アメリカが生んだ世界文学の金字塔と呼ばれる『白鯨』の作者ハーマン・メルヴィルの研究を目的とするもので、隔年に世界各地で開かれているが、日本はもとより、アジアでの開催はこれが初めてだ。

今年の会議のテーマは「グローバル時代のメルヴィル」とされ、アメリカとヨーロッパ各国、それに韓国と、文字通りグローバルに7カ国から約80人の学者や研究者が集まり、日本の参加者と共にメルヴィルを論じた。

もとより『白鯨』や他の作品の中にメルヴィルが万次郎をとりあげているわけではなく、純粋に文学上の論議には万次郎の出る幕は全くない。

小説『白鯨』は、モービー・ディックと呼ばれる巨大な白鯨に片脚を食いちぎられて復讐心に燃えるエイハブ船長が、太平洋でこの白鯨を追い求め、最後には捕鯨船もろとも海の藻くずにされてしまうという物語だ。

メルヴィルは物語を進めながら、旧約聖書やギリシャ・ローマの古典などからふんだんに引用し、寓意に満ちた文章でページを埋めて行く。独特の表現の奥深い意味は、いく通りにも解釈できて難解だ。

そして最大の特徴は、メルヴィルが鯨と人と海について、捕鯨船と乗組員の作業について、また捕鯨そのものについて、実に正確にまた微に入り細をうがって記述していることだ。この部分は合計すると『白鯨』全ページの半分以上を越える。

このように『白鯨』は、文学作品であると同時に、捕鯨の歴史と19世紀アメリカ捕鯨についての百科全書なのである。万次郎と『白鯨』、そしてハーマン・メルヴィルが深くつながるのはまさにこの部分である。

メルヴィルと万次郎は同時代に生き、実際にいくつかの場所ですれ違った。

1841年1月3日、21歳のメルヴィルは捕鯨船アクシュネット号の新米乗組員として、万次郎がその2年後に住むことになる米マサチューセッツ州フェアヘーブンを出港した。一方同年1月27日、14歳の万次郎は、4人の先輩漁師と土佐の宇佐浦から漁に出て漂流する。

1841年6月、万次郎たちを救ったホイットフィールド船長のジョン・ハウランド号は、メルヴィルを乗せたアクシュネット号と同じころ南太平洋で鯨を追った。

そして10年に及ぶ海外体験を積んだ万次郎は、1851年に漂流仲間2人と共に琉球に決死の上陸をして帰国を果たす。メルヴィル

寄稿「ジョン万次郎と白鯨」

の『白鯨』が出版されたのは奇しくも同じ年のことだった。

今回の国際メルヴィル会議のテーマとされた「グローバル時代のメルヴィル」には、ペリーの黒船来航以来の日米交渉史や比較精神史を含めた広いグローバルな視点から、メルヴィルを見直すことが含まれていた。

「あの二重に鍵を掛けられた国であるジャパンがいずれ門戸を開くことがあれば、それを促した功績が帰されるべきは捕鯨船に尽きるであろう。現にいまも捕鯨船は門の前まで行って開門を待っているのである。(『白鯨』24章より)

ペリーの黒船来航前の鎖国日本と捕鯨船の関係を、メルヴィルは正確に記述していた。しかしその3年後の1854年、2度目のペリー来航で日本が鎖国の扉を開いたとき、大きく貢献したのはほかならぬ米捕鯨船に乗っていた日本人万次郎であることを、メルヴィルは知る由もなかった。

今度の国際メルヴィル会議で、研究発表やパネルディスカッションのほか特に注目されたのは、会場の一隅に展示された美術作品のインスタレーションである。

米メルヴィル協会が本部を置くニューベッドフォードのアーティスト、ピーター・M・マーチンさんの作品で、『白鯨』の中から得た自分のイメージを、黒い紙を切り抜く独特の手法で表現したものだ。

特にこの東京の国際会議のために制作したという作品は、日本語で「信頼」と名づけられ、万次郎の歩みを表現したものだという。

マーチンさんがこの作品の想を得たのは「銚索(もりづな)」と名づけられた『白鯨』第60章の中の言葉だ。

「人は皆、銚索にがんじがらめになって生きているのではないか」。

捕鯨ボートの中にきちんと巻いて置かれた索は、人みな期待する安穏な人生を示す。しかし索の先は銚につながっており、ひとたび銚が鯨に打ち込まれば、荒れ狂う鯨に引かれて索はボートの漕ぎ手を海にはじき飛ばし、あるいはがんじがらめにする凶器になる。

マーチンさんはこの危険を、もつれあった索で表し、がんじがらめにならないで前に歩む万次郎をその足跡で示した。

そして万次郎があらゆる危険を克服できたのは、「信頼」があったからだともマーチンさんは強調する。それは海の上にあっては乗組員相互の信頼であり、特に万次郎の能力に対する信頼である。

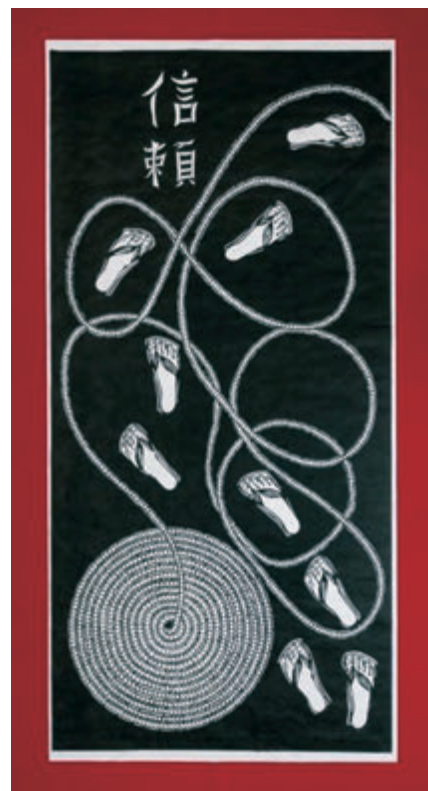
万次郎が身を置いた19世紀半ばの米捕鯨最盛期の捕鯨船について、メルヴィルはこう言う。「捕鯨船というものは海に浮かぶヤクザ社会みたいなもので、あのようなどうにもこうにも得体のしれぬ異国の民輩が、これまた地球上の見たことも聞いたこともないような僻地から、でなければ掃き溜めから訪れて来ては草鞋を脱いで行く場所なのだ。」(『白鯨』第50章より)

万次郎が乗り組んだジョン・ハウランド号もフランクリン号も、似たような「ヤクザ社会みたいなもの」だっただろう。しかし人種や宗教や習慣などが違って、捕鯨という共通の目的のために協力し共生せざるを得ない社会なのだ。指導力にすぐれ、力量のある者だけが信頼を受ける。万次郎は持ち前の能力をフェアヘーブンで磨き、さらに捕鯨船の上でそれを鍛え上げたに違いない。

メルヴィルの分身として『白鯨』の物語の語り手をつとめる新米捕鯨船員イシュメールがこう言う。「捕鯨船こそは、おれのイェール大学であり、おれのハーヴァード大学であったのだ。」(『白鯨』第24章より)

19世紀のさなか、メルヴィルと同時代に米捕鯨船に乗って太平洋で鯨を追い、イシュメールと同じように海のハーヴァードで学んだ日本の若者「万次郎」がいた。世界中から集ったメルヴィル研究者に、このことを改めて認識してもらっただけでも、この国際メルヴィル会議には大きな意義があったと思う。

(文中の『白鯨』からの引用はすべて千石英世訳・講談社文芸文庫2000年発行より)



事務局だより

土佐ジョン万会の森薫事務局長より、以下の寄稿をいただきましたので、ご紹介します。

去る10月3日と4日、マサチューセッツ州で開催された「第15回ジョン万祭りinフェアヘイブン」に、高知市三里中学3年生の濱田裕介君の引率者として参加して来ました。

濱田君は8月に高知市で開かれた土佐ジョン万会・高知日米協会共催の「第1回ジョン万次郎英語弁論大会」(高知県下の中・高校生対象)に参加して最優秀賞となり、その副賞としてこのお祭りに参加することとなったものです。

これを知った現地の主催者から、濱田君のスピーチを是非アメリカでも聞きたいという要望があり、お別れ晩餐会では濱田君が英語のスピーチを披露。約5分間のスピーチは、「Reach My Goal(ゴールを達成するために)」というタイトルで、万次郎のように鉄の意志を持ち、決してあきらめないでプロサッカー選手になる夢を実現したいという決意を述べたものでした。

晩餐会には地元の有力者や日本のボストン駐在総領事、州議会議員、土佐清水からの代表団、また日本各地からの参加者など約150人が出席。日米の聴衆を前に臆することなく堂々と英語スピーチを終えた15歳の濱田君に、全員席を立ち、拍手は数分間鳴り止みませんでした。私は当時の万次郎少年を見ているようで、涙が出そうになりました。

この弁論大会企画を立ち上げた一人として感慨深いものがあります。次回の最優秀者は、アトランタでの日米草の根交流サミットに招待できればと思っています。

森 薫



スピーチをする濱田君



拍手喝采の様子

平成26年度寄附協賛企業一覧 (50音順)



アイシン精機株式会社



曙ブレーキ工業株式会社



イオン株式会社



鹿島建設株式会社



キッコーマン株式会社



株式会社ジェイテクト



全日本空輸株式会社



ダイキン工業株式会社



株式会社大庄



株式会社デンソー



東海旅客鉄道株式会社



豊田合成株式会社



トヨタ自動車株式会社



株式会社豊田自動織機



豊田通商株式会社



株式会社永谷園



株式会社ニフコ



日本郵船株式会社



日野自動車株式会社



富士通株式会社



ブラザー工業株式会社



三井住友海上 三井住友海上火災保険株式会社



三菱商事株式会社



三菱食品株式会社



明治安田生命保険相互会社

愛知製鋼株式会社/アサヒグループホールディングス株式会社/東京海上日動火災保険株式会社
トヨタファイナンシャルサービス株式会社/トヨタ紡織株式会社/パナソニック株式会社/矢崎産業株式会社